



ヘルパンギーナについて

根室保健所

ヘルパンギーナとは？

夏期に流行するウィルス性の感染症で、乳幼児がかかりやすい夏風邪の、代表的な病気の一つです。

- 突然の38～40度の発熱が1～3日間続き、同時にのどが痛む病気で、食欲不振・全身のだるさ・頭痛などを起こします。
- のどは、軽度に赤くなり、口の中に小さな水疱ができます。
- 一般的には経過は良好で、後遺症は残らず、2～3日以内に回復します。
- 急性期には、のどからウイルスが排泄されるため、せきをしたときのしぶきより感染します。

予防法は？

- 特別な予防法はありません。
- せきやくしゃみにより（飛沫感染）、あるいは患者の手についたウイルスにより汚染された飲食物を介して（経口感染）感染しますので、外出後のうがい、手洗いを徹底しましょう。
- 治った後も2週間から4週間は便にウイルスが排泄されるので、手洗いを徹底すること、幼稚園、保育園、学校などの集団生活ではタオルの共用をしないことが重要です。
- 他の人にうつさないために咳エチケットを心がけましょう。

かかってしまったら？

- 治療は対症療法のみで、発熱などつらい症状をやわらげる治療が中心です。
- 口の中に水疱ができるため、食事や水分がとりにくくなり、脱水症状をおこすことがあります。やわらかく、刺激の少ない飲食物を摂取することを心がけましょう。
- まれに、髄膜炎などを併発することがありますので、ぐったりしている、呼びかけに対する反応が鈍い、意味不明の発言をする、などの症状が現れた場合は、すぐに病院を受診しましょう。

※詳しい発生状況や今後の動向につきましては、「北海道感染症情報センター」のホームページを御参照願います。（<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>）



【問い合わせ先】

根室保健所 健康推進課保健係

住所：根室市弥栄町2丁目1番地

電話：0153-23-5161